



— 巻 頭 言 —

今、求められる医療と核医学技術

大垣市民病院 安 田 鋭 介

現代の医学は、科学的な考え方で対象を客観視して研究が行われ、臓器別の疾患を対象にしています。さらに診断技術や治療法の進歩は、診断方法別や治療方法別に研究され、そこで得た成績を根拠とする臨床医学が行われています。こうして医学・医療技術の進歩は、医学をより細分化し多くの専門家を育て、最近では臓器移植や遺伝子診断、遺伝子治療も可能としました。しかし、一方では「木を見て森を見ず」の弊害を生じ、全身医学の重要性が求められてきています。今、現代医学は経験したことの無い高齢化社会を迎え、その欠陥も明らかになって来ており、EBM (Evidence Based Medicine) の行き過ぎを、相補的に働く NBM (Narrative Based Medicine) が提唱され、この視点は科学としての医学と、人間の触れ合いという意味の医療とのギャップを埋めていく効果を持つと言われています。昨今の医療情勢をみたとき、医学・医療技術の進歩は医療環境を著しく変えました。また、インターネットなどの情報化社会になったことや健康意識の高まりも相まって、医学・医療のあり方に関心が持たれ、国民の医療への考え方も変わり、より高度な医療技術の提供を当然のように求めるようになりました。我々が提供する核医学診療情報は、先端医療技術の中でも生体機能や代謝に基づく唯一の診療画像で、高品質な画像を標準的にしかも恒常的に提供できることが望まれており、地域格差のないことが理想とされています。画像処理技術の発展は、生体内情報伝達などの見えない働きをも画像情報として支援できる可能性を持ち、この生体内情報を精度高く確実に映像化する技術学として、より専門的な知識と高度な技術の修得が求められています。しかし、これは臨床医学の中でも特殊な分野とする位置づけが加速化される一面もあります。我々は昨秋、総会学術大会を日本核医学会学術総会と初めて合同開催し、核医学に関係する医療技術者が一同に介して議論する場を持ち、日常の核医学診療における医療技術者の「協調と融合」の重要性を確認し、臨床医学や分子生物学そして情報科学などの他分野との連携を密接に持つことで、新しい技術の開発や発展が期待され、この合同開催の成功がもたらす成果は将来に向けた核医学診療の発展に大きく貢献するものと期待されます。

本学会は今春「特定非営利活動法人 日本核医学技術学会」として、法のもとに存在する学術団体となり、我が国唯一の核医学を専門とする技術者の学会として、また公益事業である国民の医療福祉の向上を目指した学術活動を展開する学術団体として新しく出発します。核医学技術学の発展を通じ、核医学の知識や技術の向上、普及啓発、良質な医療の提供に努め、国民の医療福祉の向上に寄与することを目的とする学会本来のあり方に向かって、会員一人ひとりが邁進することで、我が国の核医学診療を支える医療技術者の学術団体として、さらに発展することを祈念いたします。